



おきなわSDGs 国際協力ネットワーク 形成プログラム

～ SDGs の目標達成に向けた企業と NGO の出会いの場づくり～

発行・編集

特定非営利活動法人レキオウイングス

住所：〒901-2121 沖縄県浦添市内間2-21-30-405

電話：098-943-8919

協力

独立行政法人国際協力機構（JICA）沖縄センター

住所：〒901-2552 沖縄県浦添市字前田1143-1

電話：098-876-6000（代表）

発行日：2021年10月

はじめに

目次

- 01 はじめに
- 02 おきなわSDGs国際協力ネットワーク形成プログラムについて
- 03 分科会の活動
 - 03 取り組み一覧
 - 05 環境分科会
 - 06 キャパシティビルディング分科会
 - 07 食育、商品開発・マーケティング分科会
 - 08 平和分科会
 - 09 外国人材分科会
- 10 パネルディスカッション
- 11 参加NGO
- 15 参加企業
- 22 今後の方針
- 23 編集後記

「おきなわSDGs国際協力ネットワーク形成プログラム」は、2019年10月に開始され、2年間の事業を実施してきました。

SDGsの17番目の目標「パートナーシップ」、特にNGOと企業のパートナーシップ形成を目的とした本プログラムは、2020年3月に発生したコロナ感染症の影響を大きく受けました。

2020年10月、当センターの体育館でこのプログラムのセミナーを開いたところは、当初の事業計画転換の必要を認識しつつ、一方今後どのような方向性でプログラムを進めていくことがベストなのか、関係者で頭を悩ませていたと聞いています。

そのような中、実施団体・参加団体が共に国内で実施できる国際協力とSDGsについて考え、プログラムの進め方を工夫し、得意分野ごとのグループに分かれて活動する現在の分科会という形式をとることになりましたが、これこそが、今日までのプログラムの継続と、それぞれの分科会での活動の成果を導いたのだと感じています。

本プログラムでは、沖縄県内のNGOと企業のマッチングを図り、「平和」「外国人材」「食」「環境」「キャパシティビルディング」の5つの分科会を作りました。各分科会では情報の交換や発信にとどまらず、チームでセミナーやイベント、商品開発などの企画・立案・実施を試みる活動を行いました。このような活動は我々JICA沖縄としても非常に斬新な取り組みでした。

また、本プログラムに当センターが後援する「おきなわSDGsユース」の皆さんにも参加いただいたことで、今後の国際協力人材の育成を図ることもできたのではないかと思います。

「おきなわSDGs国際協力ネットワーク形成プログラム」は、NGOと企業のみなさんの関係づくりの第一歩でした。このパンフレットは、これまでの本プログラムの記録をまとめとして発行されています。

本プログラムは10月で一旦区切りを迎えますが、このきっかけを今後長く続く関係にすべく、今後は「おきなわ国際協力プラットフォーム」を2021年10月からスタートいたします。

このプラットフォームは、NGO-JICA協議会の地域版として初めて沖縄県に設置されるものです。SDGsや沖縄21世紀ビジョンの目標への貢献をNGO等、企業、学生等が協働して取り組んでいく「沖縄モデル」の確立を目指しています。今後は、このプラットフォームを通じて、さらに多くの皆様に国際協力やSDGsに関心を持っていただければ幸いです。



2021年10月
JICA沖縄
所長 倉科 和子

おきなわ SDGs 国際協力ネットワーク形成プログラムについて

1 背景

持続可能な開発目標(SDGs) や沖縄21世紀ビジョンなどを踏まえ、開発途上国に対する国際協力活動を行う沖縄県の NGO等と海外展開を検討している企業の協働へのマッチングを行っていくことがより重要になってきています。

そこで本プログラムでは、NGO等と企業のマッチングと実際の協働を試みます。NGO等と企業の間でそれぞれの強み、課題、ニーズを共有し、マッチングの可能性を探り、協働した事業形成を行っていきます。

NGOと企業等が出会う場を創り、コロナ禍から社会的な状況改善後も見据えた協働を模索していくことで、NGOと企業等の協働モデルが生まれるとともに SDGsに係る沖縄発の国際協力のネットワークの基盤形成につながることを目的として本プログラムを実施します。

2 目的

NGO等と企業の連携による案件形成や事業提案の協働モデルを試行することで、おきなわ SDGs国際協力ネットワークの基盤が形成される

3 事業の成果

- 1 NGO等と企業の出会いの場がうまれる
- 2 NGO等と企業のさまざまな協働がうまれる
- 3 NGO等と企業の協働モデルがまとめられる



食育、商品開発・マーケティング分科会

活動	日時	内容	参加人数
個別フォローアップ	2020年12月7日(月) 10:00~12:00	連携事業の具体化を目的に、活動内容及びスケジュールを協議した。	6名
1月分科会	2021年1月26日(火) 14:00~17:00	プロジェクトテーマである NPO法人レキオウィングスを主体とする「食育(食育ゲーム教材の開発)」と NPO法人パシフィックガーデンを主体とする「食品(協働企画による商品化)」の2つの連携案について協議を進めた。	8名
2月分科会	2021年2月24日(水) 14:00~17:00	食育では、食育ゲーム教材の開発に向けて対象や内容について協議、食品では、カカオが入ったドライカレーの試作品を試食・検討した。	10名
4月分科会	2021年4月7日(水) 14:00~16:30	食育では、ゲーム教材の対象を小学校中学年と決め、既存のゲームの特性等を踏まえながら、どのような形式のゲームにするか具体的に協議、食品では、カカオを使用した菓子の試作品を試食・検討した。	10名
5月分科会	2021年5月12日(水) 14:00~16:00	食育では、引き続き開発するゲームの方向性について、既存のゲームの特性を比較しながら具体的に協議、食品では、カカオニブの蜂蜜漬けの試作品を試食し、商品開発を検討した。	11名
6月分科会	2021年6月15日(火) 14:30~17:30	「おきなわSDGsユース」が新たに分科会に参加、食育では、開発するゲームの案を基に、完成させるメニューを検討した。食品では、試作・検討した「ソロモン産カカオ入りドライカレー」のレトルトパウチでの販売について検討した。	15名
7月分科会	2021年7月13日(火) 14:30~17:30	「ソロモン産カカオ入りドライカレー」のレトルトパウチの商品開発に関する意見交換を行った。また、SDGsシンポジウムでのお披露目を目指し、スケジュールや作業手順について確認した。	16名

平和分科会

活動	日時	内容	参加人数
個別フォローアップ	2020年12月9日(水) 13:30~15:30	連携事業の具体化を目的に、活動内容及びスケジュールを協議した。	5名
1月分科会	2021年1月29日(金) 14:00~17:00	(株)note、(株)国際旅行社、NPO法人沖縄平和協力センターの協働によるプロジェクトテーマである次世代が学びながら平和の想いを引き継ぐことができる「平和教育ツアー企画」に向けて協議を進めた。	5名
3月分科会	2021年3月2日(火) 14:00~16:00	プログラムの企画段階から、ツアーの参加、終了後の報告までを学生が経験することを企画の方針とし、事業の実施スケジュール、効果的な内容について具体的に協議した。	8名
4月分科会	2021年4月6日(火) 14:00~16:30	プログラム参加の学生募集に向けて、フローや役割分担について引き続きより具体的に協議した。	8名
6月分科会①	2021年6月4日(金) 10:00~11:30	「おきなわSDGsユース」が新たに分科会に参加、事前学習としてのインターン、オンライン研修について協議した。	16名
6月分科会②	2021年6月11日(金) 10:00~11:00	「おきなわSDGsユース」による国際協力と人材育成の要素を組み込んだ平和研修ツアーの企画に向け、事前学習研修の役割分担を確認した。	9名
7月分科会	2021年7月17日(土) 10:00~17:00	平和研修ツアーの企画に向け、パラオの概要や歴史(太平洋戦争時を含む)、パラオにおけるJICA事業について理解を深めることを目的に事前研修プログラムを実施した。	16名
8月分科会①	2021年8月10日(火) 9:30~12:30	平和研修ツアーの企画・立案に向け、沖縄平和協力センターの講義ではNPOの活動等について学び、前回の分科会で考えた資料を基にJICAパラオ事務所とオンラインで質疑応答を行った。	16名
8月分科会② インターンシップ	2021年8月11日(水) 10:00~17:00	平和研修ツアーの企画・立案に向け、(株)国際旅行社の研修で、オンラインで意見を交換しながら実際に企画を大方完成させた。	11名
8月分科会③ 振り返りワークショップ	2021年8月12日(木) 10:00~17:00	平和研修ツアーの企画・立案に向け、前回の分科会で作成した企画の英訳を進め、JICAパラオ事務所も繋ぎ発表した。発表後のフィードバックを踏まえ企画を完成させた。	15名

外国人材分科会

活動	日時	内容	参加人数
個別フォローアップ	2020年12月3日(木) 13:30~15:30	連携事業の具体化を目的に、活動内容及びスケジュールを協議した。	5名
1月分科会	2021年1月28日(木) 14:00~17:00	在住外国人に関する多岐にわたる問題を解決するため、(株)ティーエーネットワーク、沖縄 FLADS/SDGs、NPO法人沖縄NGOセンター、沖縄・ミャンマー友好協会が協働で在住外国人サポート体制を構築することをプロジェクトテーマとし、協議を進めた。	4名
3月分科会①	2021年3月5日(金) 14:00~17:00	アンケート調査資料等を用いて在住外国人に関する課題を把握、また、サポート体制構築のプロセスとして、企業を対象とした外国人材雇用に関するセミナー開催について協議した。	5名
3月分科会②	2021年3月19日(金) 15:00~17:00	セミナーの目的を沖縄県内に在住する外国人を雇用、あるいは雇用を検討している企業を対象に、外国人材雇用の優良事例を紹介するとし、内容を具体的に検討した。	6名
4月分科会	2021年4月16日(金) 14:00~16:00	セミナー開催に向けて、引き続き具体的な内容及び役割分担に向けて協議した。	9名
いちやりば多文化人材・沖縄県における外国人材と多文化共生の現状セミナー	4月27日(火) 14:00~16:30	第一部 ●「いちやりば多文化人材・沖縄県における外国人材と多文化共生の現状セミナー」JICA 沖縄宮本みち子氏 / 第二部 ●優良事例紹介 ①優塗装工業 比嘉勇気氏 ②実習生チョン氏 ③リウエン商事 古謝哲也氏 ④元実習生・現社員 ボカレル レサム氏 ●グループディスカッション	30名
5月分科会	2021年5月21日(金) 14:00~16:00	「おきなわ SDGユース」が新たに分科会に参加、「いちやりば多文化人材・沖縄県における外国人材と多文化共生の現状セミナー」について振り返り、今後の取り組みについて協議した。	16名
6月分科会	2021年6月25日(金) 14:00~16:00	これまでの振り返り、「多文化共生 OKINAWA」イベントについて、インターンの詳細について協議した。	17名
7月分科会①	2021年7月15日(金) 10:00~12:00	緊急事態宣言の発令、延長に伴い延期した「多文化共生 OKINAWA」イベントについて、引き続きイベント運営・役割分担について協議した。	17名
7月分科会②	2021年7月28日(木) 14:00~16:00	「多文化共生 OKINAWA」イベントについて、引き続きイベント運営・役割分担について協議した。	11名
8月分科会①	2021年8月20日(金) 10:00~12:00	「多文化共生 OKINAWA」イベントについて、引き続き再延期後の日程について協議した。	18名

企業とNGOの連携方法とWin-Winについて

～おきなわSDGs国際協力ネットワーク形成プログラム～

ACTIVITIES

- 1 スポンサーシップ ・ ・ ・ ・ ・ 寄付(カネ、ヒト、モノ)や助成金プログラムによりNGOの活動を支える
- 2 協働プロジェクト ・ ・ ・ ・ ・ プロジェクトやキャンペーンの運営支援、地域パートナーシップなどで、同じ目標に向かい協力して活動する
- 3 キャパシティビルディング ・ ・ 企業への研修・講演サービス提供、人材教育としてのボランティア受け入れ
- 4 コーズマーケティング ・ ・ ・ ・ 社会貢献につながる商品やサービスをつくり、販売を促す



おきなわNGO ～途上国の社会課題に向き合う団体～

WIN-WIN

- 1 新しい財源獲得の可能性
- 2 途上国への新サービスの提供
- 3 プロジェクトへの協力・支援
- 4 経営力の強化

企業等

WIN-WIN

- 1 CSR・SDGsなど社会的責任を果たすことができる
- 2 新たなサービス・商品開発の可能性
- 3 海外展開の足がかりとなる
- 4 優秀な人材の確保
- 5 研修場所(留職)、若手人材の育成
- 6 人材不足への対応可能性

8月分科会② インターンシップ	2021年8月30日(月) 14:00～17:00	企画立案に向けて沖縄 NGOセンターの取り組みや外国人労働者について課題等を理解し、自分 たちにできることを考えた。	9名
9月分科会	2021年9月17日(金) 10:00～12:00	「多文化共生OKINAWA」イベントについて、引き続き再延期後の日程について協議した。またユー スが企画についての案を発表し、分科会から助言をした。	19名

環境分科会

活動	日時	内容	参加人数
個別フォローアップ	2020年12月7日(月) 13:30～15:30	連携事業の具体化を目的に、活動内容及びスケジュールを協議した。	8名
1月分科会	2021年1月27日(水) 14:00～17:00	テーマ「ごみ拾いイベント」について、協働するトーラス(株) 及びリチャージ(株) とイベント の集客力向上と持続性を目標とした効果的な広報について協議を進めた。	8名
2月分科会	2021年2月24日(水) 10:00～12:00	南城市あざまサンサンビーチでの「ビーチクリーン活動」を通じて、沖縄のごみ事情や、SDGsに ついて学べるイベントを行うこと等を協議した。	10名
3月分科会	2021年3月11日(木) 10:00～12:00	南城市あざまサンサンビーチでの「ビーチクリーン活動」の実施内容や経費、協賛金、役割分担 について具体的に協議した。	8名
4月分科会	2021年4月16日(金) 10:00～12:30	「南城市あざまサンサンビーチでのビーチクリーンアップ活動」の実施内容や役割分担及びプロ ジェクトの継続的な取り組みに向けて引き続き協議をすすめた。	13名
5月分科会①	2021年5月7日(金) 10:00～12:30	「南城市あざまサンサンビーチでのビーチクリーンアップ活動」に向けて、会場を下見し、ごみ の回収範囲、分別方法を確認し、役割分担を協議した。	5名
5月分科会②	2021年5月17日(月) 10:00～12:00	「南城市あざまサンサンビーチでのビーチクリーンアップ活動」再延期に係る調整及び引き続き 役割分担、準備物について協議した。	13名
6月分科会①	2021年6月1日(火) 10:00～12:00	「おきなわSDGsユース」が新たに分科会に参加、「南城市あざまサンサンビーチでのビーチク リーンアップ活動」の準備及び「アップサイクル」についての取り組みに関する検討を始めた。	17名
6月分科会②	2021年6月22日(火) 10:00～12:00	「南城市あざまサンサンビーチでのビーチクリーンアップ活動」の準備及び「アップサイクル」に 関する事例紹介、おきなわSDGsユースのインターンの内容について協議した。	11名
7月分科会①	2021年7月13日(火) 10:00～12:00	「南城市あざまサンサンビーチでのビーチクリーンアップ活動」の運営確認及び「アップサイク ル」、おきなわSDGsユースのインターンの内容について引き続き協議した。	17名
ちりひるゆんプロジェクト In あざまサンサンビー チ～第1回 琉球クリーン アップイベント～	2021年7月18日(日) 10:00～12:30	沖縄がいつまでも綺麗でいられるようにみんなで楽しくクリーンアップをする活動として、ごみ を拾うだけでなく、分別の仕方やごみの行方、拾ったごみの正体など、みんなが知らない「ごみ のこと」を大人も子供も楽しく学べるイベントを目指し、開催した。	100名
7月分科会② インターンシップ	2021年7月28日(水) 14:00～16:30	企画立案に役立てるため、トーラス(株) の SDGs達成に向けた取り組みを学び、ワークショッ プでは、インターネットサイトのコンテンツを作成した。	4名
8月分科会① インターンシップ	2021年8月13日(金) 10:00～16:00	企画立案に役立てるため、甲陽興産(株)の廃棄物処理等の事業内容、SDGs達成に向けた取り組 みを学び、ワークショップでは、環境学習 SDGsゲーム体験し、環境問題とSDGsについて考えた。	11名
8月分科会② 振り返りワークショップ	2021年8月16日(月) 13:00～17:00	企画立案に向けたこれまでの取組みを振り返りまとめ、今後の企画立案に向けた提案を踏まえ発 表した。また、7月18日(日)に開催した「ちりひるゆんプロジェクト」の反省会も実施した。	15名
9月分科会 分科会	2021年9月16日(金) 10:00～12:00	ユースによる企画立案の発表に対して分科会から助言をした。また、今後の分科会の方向性及び 実施内容について協議をすすめた。	12名

キャパシティビルディング分科会

活動	日時	内容	参加人数
1月分科会	2021年1月26日(火) 10:00～12:00	オキコ(株) と NPO法人日本スリランカ次世代育成サポートの協働によるプロジェクトテーマで ある「マインドフルネスセミナー開催」に向け、協議を進めた。	4名
公開ワークショップ『マイ ンドフルネスで心の健康を 保つ方法』～メンタルヘル スで日々の生活を楽しく～	2021年2月26日(金) 14:00～16:00	1. 「マインドフルネスの概要」講師: ディリーブ・チャンドララル氏(沖縄大学名誉教授、 NPO法人日本スリランカ次世代育成サポート理事長) / 2. 「マインドフルネススリランカでの 活用」講師: ウダヤギリエ・ダンマシリ師(広島大学大学院博士課程後期2年生 仏教学専攻) 出身 地スリランカ / 3. マインドフルネスワークショップ 講師: 竹下和華子氏	20名
3月分科会	2021年3月5日(金) 10:00～12:00	JICA沖縄、県立博物館・美術館、沖縄大学で開催された「マインドフルネスセミナー」について の報告及びスリランカで2021年1月に開校した「希望国際学園」の教員と、沖縄の教員のオンラ イン情報交換会の実施が提案され、日程や内容について協議した。	2名
～国際協力に向けた企業 × NGOの連携～スリランカ 「きぼう学校」とオンライン 情報交換会開催プログラム	2021年4月23日(金) 16:00～17:00	黒糖菓子紹介(オキコ株式会社大城)、スリランカハクル菓子紹介(スリランカブライトムーン)、 教員の課題について意見交換他。	15名
記念講演会『教育が希 望をもたらす』	2021年6月19日(土) 14:00～16:30	●第一部「生きる力を育む実践的教育とは」/ チャンドララル氏 講話 / 青木元氏 講話 ●第二部「学生の国際交流体験談とディスカッション」	20名
第5回 沖縄スリランカ教育 文化交流事業『これからの 多文化共生を考える』～国 際井戸端会議～	2021年9月18日(土) 14:00～16:00	国際井戸端会議と交流会 ●コーディネーター 青木元氏(ノイズ・バリュエ社) ●パネリスト: 4名 / ディリーブ・チャンドララル氏(理事長) / 玉城頼史氏(オキコ株式会社管理部総務管轄次長) / 山田浩子氏(東洋言語文化学院校長) / 伊禮英全氏(JICA沖縄) ●留学生及び技能実習生: 6名	43名

貧困削減・シンポジウム

活動	日時	内容	参加人数
「参加型 SDGsイベン ト」について	2021年5月13日(木) 18:00～19:30	大阪大学在学中の山田果凛氏が実施したい「参加型 SDGsイベント」について本プログラムとし てもアドバイスする形で打ち合わせを行った。	5名
SDGsの目標達成に向け た企業とNGOの協働につ いて考えるシンポジウム	2021年9月2日(木) 14:00～17:00	SDGsの目標達成に向け、企業とNGOの協働について考えることを目的にプログラム(基調講演、 他府県の取組紹介、事業の活動紹介)を実施。	36名

環境分科会

環境分科会は、企業として、トーラス株式会社、リチャージ株式会社、甲陽興産株式会社、有限会社クリーン
アイランド、合同会社シーナプロジェクト、NGOとして、NPO法人レキオウィングス、個人が参加していま
す。これまで2020年12月から2021年9月にかけて15回にわたり分科会を開催してきました。

沖縄の環境問題の解決には、一人一人の行動が必要であり、その行動を促すために、ごみ拾いを行うことにし
ました。ビーチクリーンでごみを拾うだけでなく、ごみ問題についての研修や有価物の回収等を採り入れた「琉
球ちりひるゆんプロジェクト」を2021年7月に南城市のあざまサンさんビーチで実施しました。当初2021年5
月30日のごみゼロの日に活動を行う予定でしたが、まん延防止重点措置や緊急事態宣言の延長によって7月18
日に開催となりました。当日は、100名以上の参加者が集まり、約200kgの漂着ごみと約60kgの有価物を回収す
ることができました。

今後、本分科会では、親子、特に子どもたちを対象とした「琉球ちりひるゆんプロジェクト」や「子ども環境
サミット」、「廃棄物からのアップサイクルの取り組み」、「学習会」などを継続して実施していきたいと考え
ています。

課題・ニーズ

沖縄の環境に関して現在起きている問題やそれに対
するアクションが必要とされている

企業・NGO

トーラス株式会社・リチャージ株式会社・シーナプ
ロジェクト・有限会社クリーンアイランド・甲陽興
産株式会社・金城明子氏・リボルブ・NPO法人レ
キオウィングス・JICA沖縄・おきなわSDGsユース

・琉球ちりひるゆんプロジェクト

目的

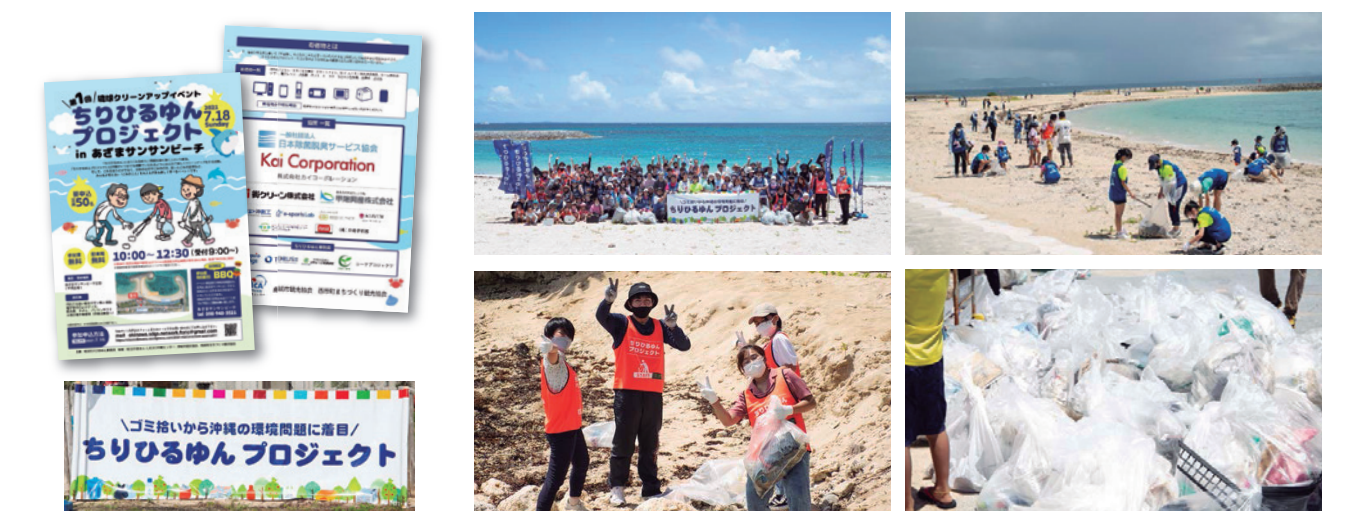
●沖縄がいつまでも綺麗でいられる
ように、皆で楽しくクリーンアッ
プ活動を行う。

活動

●7/18に、あざまサンサンビーチで
ビーチクリーンアップ及び有価物
の回収活動を行う。

成果

●ごみを拾うだけでなく、分別の仕
方やごみの行方、拾ったごみの正
体が分かる。



キャパシティビルディング分科会

キャパシティビルディング分科会は、企業として、オキコ株式会社、NGOとして、NPO法人日本スリランカ次世代育成サポートが参加しています。

2021年1月以降、6回の会合を実施し、うち、4回はオキコの社員や一般の方を対象としたセミナーを実施してきました。「マインドフルネス」に関する公開ワークショップ、スリランカ「きぼう学校」とオンライン情報交換会、記念講演会「教育が希望をもたらす」、沖縄スリランカ教育文化交流事業「これからの多文化共生を考える」国際井戸端会議など、多岐にわたるテーマで沖縄とスリランカをつなぐ活動を展開してきました。

今後は、本分科会は、2022年は日本スリランカ国交樹立70周年であり、スリランカでの「実践的能力を伸ばす教育モデルの構築を目指す教育支援プロジェクトと教育支援のためのクラウドファンディング、「心でつなぐ沖縄とスリランカ芸能交流事業」などを計画しています。

課題・ニーズ

スリランカの教育の質を高めたい

企業・NGO

オキコ株式会社・NPO法人日本スリランカ次世代育成サポート・リボルブ・NPO法人レキオウィングス・JICA沖縄

・スリランカ「きぼう学校」とのオンライン情報交換会・記念講演会の開催

・多文化共生を考える国際井戸端会議

目的

- 平和な社会を実現するための次世代育成を支援する

成果

- 多様な人々がお互いの文化を理解する

活動

- スリランカ「希望国際学園」の教職員と沖縄県の関係者でオンライン交流会を行う
- 次世代育成に関するテーマの講演会を開催する
- 多文化共生を考える国際井戸端会議を開催する

食育、商品開発・マーケティング分科会

食育、商品開発・マーケティング分科会は、企業として、株式会社みやぎ農園、株式会社さし草屋、新垣養蜂園、NGOとして、NPO法人パシフィックガーデンが参加しています。

2020年12月以降、10回にわたり分科会を行ってきました。食育分野では、途上国で特に子どものころからの栄養に関する教育を進めたいことから、沖縄で食育ゲームを製作しようと考え、ゲームのコンセプトや形式等について話し合ってきました。現在、ボードゲームのような形式でゲームを作製していくところまで進んでいます。

商品開発・マーケティング分野では、ソロモンの良質なオーガニックカカオを沖縄の食材と組み合わせて商品開発できないかと考え、カカオ入りクッキーやカカオのはちみつ漬け、カカオ入りドライカレーなどを試作し、メンバーで試食したりしてきました。

その結果、ヴィーガンのカレーをレトルトパウチで800食作ることができました。今後、分科会では、さらなる商品開発を進めていく方針です。

課題・ニーズ

沖縄県内の企業とNGOが協働して、途上国の支援につながる食品加工や沖縄と海外の食育推進に寄与する

企業・NGO

新垣養蜂園・株式会社みやぎ農園・さし草屋・NPO法人パシフィックガーデン・リボルブ・NPO法人レキオウィングス・JICA沖縄・おきなわSDGsユース

・ソロモンのカカオと沖縄県産の食材を活かした食品開発

・食育ゲームの制作

目的

- 沖縄県産の食材と海外の食材による新たな商品開発で途上国を支援する
- 沖縄と海外の食育推進に寄与する

成果

- 沖縄県産の蜂蜜や卵、スパイスと、ソロモン産カカオを加工した商品が開発される
- 小学校中学年を中心に子供から大人まで楽しく学べる食育ゲームが制作される

活動

- 沖縄県産スパイスとソロモン産カカオを使用したドライカレーや、カカオの蜂蜜漬けの試作
- 既存のゲームを参考に食育ゲームを制作する



平和分科会

平和分科会は、企業として、株式会社国際旅行社、NGOとして、NPO法人沖縄平和協力センターが参加しています。本分科会では、2020年12月から10回にわたり会合を持ってきました。

戦後、墓参団が南洋諸島に訪れていましたが、この墓参団も2019年に終了してしまいました。そこで、平和への想いを次世代につないでいくにはどうしたらいいのかと考え、パラオを対象とした若者が参加するツアーを作ることにしました。

このツアーづくりには、沖縄の大学生を中心とした若者たちとともに行うことを計画しました。分科会メンバーから若者に対し、「沖縄戦について」、「沖縄とパラオの歴史」、「パラオの現地事情」、「ツアーの作り方」などについての研修を行った後、「パラオについて聞きたいこと」を挙げ、JICAパラオ事務所の皆さまに答えていただきました。この後、若者たちは、研修内容を踏まえたツアーを考え、これをJICAパラオや分科会メンバーに発表し、多くのフォードバックを得ることができました。

今後、分科会では、このパラオツアーの実現に向けて取り組んでいく予定です。

課題・ニーズ

過去50回に亘って実施されてきた「南洋諸島・慰霊と交流の旅」が2019年に終了したことから、新たな形で、次世代に平和への想いを引き継ぐ

企業・NGO

株式会社国際旅行社・NPO法人沖縄平和協力センター・山口純平氏・リボルブ・NPO法人レキオウィングス・JICA沖縄・おきなわSDGsユース

●パラオにおける研修計画を通じた次世代人材育成プロジェクト

目的

- 次世代が平和への想いやグローバルアジェンダである環境や観光、SDGsについての意識を醸成する

成果

- パラオでの次世代の人材育成研修
が計画される

活動

- パラオの平和・観光・環境等の情報を収集する
- パラオとのオンライン交流会を実施し、国際理解を進める
- パラオでの研修を計画し、研修成果を発表する



外国人材分科会

外国人材分科会で、企業として、株式会社ティーエーネットワーク、株式会社ジャンボツアーズ、OKC事業協同組合、株式会社 CGM JAPAN、NGOとして、NPO法人沖縄 NGOセンター、沖縄 SDG s 探究会、多文化ネットワーク、fuふ!沖縄、沖縄ミャンマー友好協会が参加しています。本分科会では、沖縄に住む外国人が安全安心に暮らせるようになることを目的に2020年12月から2021年9月までの間、14回にわたり会合を持ってきました。

4月には、「いちやりば多文化人材・沖縄県における外国人材と多文化共生の現状セミナー」を開催し、沖縄の在住外国人の調査結果の報告、技能実習生等を受け入れている企業からの事例報告やグループディスカッションなどを行いました。今後、10月20日には、JICA沖縄にて在住外国人と交流する「多文化共生 OKINAWA」のイベントを開催する予定です。

課題・ニーズ

在沖外国人が住み良いまちづくりに貢献する。

企業・NGO

株式会社ティーエーネットワーク・株式会社
ジャンボツアーズ・株式会社CGM JAPAN・NPO法
人沖縄NGOセンター・多文化ネットワークfuふ!沖
縄・(一社)沖縄ミャンマー友好協会・リポルブ・
NPO法人レキオウィングス・JICA沖縄・おきなわ
SDGsユース

- ・「沖縄県における外国人材と多文化共生の現状」セミナー

目的

- 外国人材と多文化共生についての現状を共有する

成果

- 沖縄県内の企業に外国人材雇用の優良事例を紹介する

活動

- 沖縄県内の外国人材を雇用している、あるいは雇用を検討している企業を対象に外国人材雇用の優良事例を紹介するセミナーを開催する



おきなわSDGs国際協力ネットワーク形成プログラム

「SDGsの目標達成に向けた企業とNGOの協働について考えるシンポジウム」パネルディスカッション

日時 2021年9月2日（木）14：00～16：20

場所 オンライン（ZOOM）

テーマ 「企業とNGOが協働することの効果について」
「企業とNGOが協働を続けていくための方法について」

パネリスト

環境分科会 企業

平和分科会 企業

環境分科会 NGO

平和分科会 NGO

ファシリテーター



甲陽興産株式会社
辻 孝博 氏



国際旅行社
諸見里 一壽 氏



おきなわ環境クラブ
金城 明子 氏



沖縄平和協力センター
仲泊 和枝 氏



リボルブ
鯨島 智行 氏

鯨島氏 SDGsに取り組む意義と苦労した点、得られた成果、今後の展開についてお聞かせください。

辻氏 SDGsに取り組む意義は、社会と経済、環境がバランスよく成り立つことを目標としているが、弊社は「環境」という切り口から、環境問題をビジネスで解決するという視点で、社会貢献度の高いサービスを提供することを考えていて、環境と経済を両立させるという難しい課題に挑戦している。取り組みを中長期的に持続させていくには、収益性を持たせる仕組み作りが大切である。NGOと連携する上で苦労したことは、コミュニケーションについてである。非営利と営利という組織の成り立ちが違うので、対等な関係で対話を重ねることが、大事であり難しいとも感じた。成果としては、NGOや他の企業と繋がるきっかけとなったことである。違う視点を持ち合い、新しい可能性が展開することは有意義であった。企業はCSRの考え方を基に環境に組み込みブランディングしていくので、今後はその支援で環境ビジネスを展開していきたい。NGOとの対話も続けていきたい。

金城氏 沖縄県は、SDGsの普及に非常に力を入れている。学校では、SDGs学習が取り入れられ、企業もSDGsの理念を掲げ、推進する取り組みを行っている。沖縄県のSDGsパートナーに登録しているが、「持続可能な沖縄の水辺の環境保全活動」というおきなわ環境クラブの設立以来の活動内容がそのままSDGsの目標にあてはまり、自分たちの活動が分かりやすく地域の人に伝わることは、利点である。連携して良かったことは、企業のもつビジネスの視点は大変学びになった。イベントもお互いの資材・技術を持ち合わせることができた。委託ではなく、横並びの連携という形態で進められたことも意義があった。今後は、環境学習教材の開発や地域でのイベントに活かしていきたい。

諸見里氏 これからは、旅行商品の販売だけではなく、旅を通して人が出会う機会を多く作り、そこから素晴らしい未来を創ることだと考えている。現在はSNS等で世界中の人と情報交換、交流ができるので、沖縄を拠点として交流を進めていきたい。世界中から人を集めるのにSDGsは共通言語であるので意義深い。苦労した点は、SDGsに関して、まだ、利益と結びつけることができないこともある。社会貢献として利益を出せない点も含め社内での理解を得ることが、今後の課題となる。ただ、「おきなわSDGsパートナー」に登録されたので、社内での理解を進めていけるのではないとも思う。旅行業以外の視点や新しいことを実施するため、実績のあるNGOと組めるのは非常に良かった。旅行を楽しむだけでなく、学び合いなどの意義深いところまで、企画してい

たい。また、ユースからの視点も教えられることがあった。

仲泊氏 平和構築や平和教育というこれまで実施してきた事業が、SDGsの目標に関連していた。SDGsの取り組みを実施しているという感覚は、あまりなかったというのが正直なところである。NPOは、委託事業が多く、自主事業で展開していく力が無かった。理想や思いだけではなく、旅行会社のプロの知見で、実際に事業化、形にできたということは、有意義だった。一方、NPOも法人として、収益が無ければ持続できないので、悩んだ。今後は、変革をして、受託だけでは無く、企業と連携して自主事業としても仕事が続けられるように努力していきたい。

鯨島氏 他のNGOと企業からのアンケートの回答に、NGOから「フットワークの違いによる足並みの揃え方が必要」とあったが、どのように思うか。

仲泊氏 NPOも収益が必要である。分科会が収益につながるか不安があった。企業もよりそのように思っているのではないかと心配していた。

鯨島氏 今もその心配があるのか。

仲泊氏 企画したツアーの商品化が困難でも、例えば、財団の助成金を活用して実施できるのではないかと今後に期待が持てるようになっている。

鯨島氏 他のNGOと企業からのアンケートの回答に、企業から「新しい視点が得られた」とあったが、どのように思うか。

辻氏 弊社は、国内での仕事为主要であり、去年から、海外へ視野を広げ、開発途上国を中心に環境貢献をしながらのビジネス展開を模索している。アイデアやサービスは持っていますが繋がりが無いので、NGOのもつネットワークを活用し、うまく連携していく可能性を感じた。もっとコミュニケーションを重ねていくとアイデアもたくさんで思う。一方で短期的経済リターンは求められ、現地の企業と話を進めるのもメリットの説明が必要になる。中長期的な社会貢献にどのようにしていくかは、難しいと模索している。寄付、投資だけでは企業は参加できないので、持続的な収益性のある事業の仕組み作りが目標である。

鯨島氏 NGOは多様なネットワークをもっているのが、企業にとっては魅力になる。また、今後の課題としては、協働を持続するために収益性があることがみえること、社内での理解を得て、取り組みを具体的にしていくこと等が課題になりそうなのが見えてきた。

NPO法人 沖縄NGOセンター

私たちの考え

① SDGsに取り組む意義

多くの人と共通の視点やゴールをもって、さまざまな課題の解決に向けて「知り、考え、行動する」こと。

② NGO／企業と連携する上で苦労した点

特にありません。

③ NGO／企業と連携して良かった点

同じ思いを持った企業のみなさんと活動することができ、それぞれの視点や大切にしていることや得意分野を活かして事業を進めることができました。

④ 今後の活動

企業や行政、地域のみなさんをはじめ、いろいろな組織や人々と関わりながら、活動を広げていきたいと思っています。

所在地	宜野湾市宜野湾3-23-52 I F
URL	https://www.oki-ngo.org/
代表者（役職）	玉城 直美（代表理事）
職員数	6名
理念	私が変わって、社会が変わる。 人とつながり、人をつなげる。
事業内容	開発教育・世界のウチナーンチュ（沖縄移民）・多文化共生
希望対象国	沖縄県内

NPO法人 おきなわ環境クラブ

私たちの考え

① SDGsに取り組む意義

地域にもわかりやすく、沖縄の水辺環境保全を通して持続可能な社会づくりに貢献できる。

② NGO／企業と連携する上で苦労した点

フットワークの違いによる足並みの揃え方。

③ NGO／企業と連携して良かった点

大人数同士や外部とで連携・共有する際の活用ツールなどを学ぶことができた。

④ 今後の活動

地域型の環境イベントの開催の充実や、オンライン教材を含む環境学習教材の開発。

所在地	那覇市字国場370番地 マル嘉アパート307号室
URL	https://npo-oec.com/
代表者（役職）	下地 邦輝（会長）
職員数	有給専従職員5名
理念	地域の自然と環境に対して、子どもと大人が共通の体験及びその回復と保全をめざした実践活動を通して、互いのふれあいと自然環境についての理解を深め、自然と環境の保全及び環境教育を推進し、文化の振興に寄与する。
事業内容	①地域の自然と環境の保全に関する事業 ②環境教育に関する観察会及び研修会、セミナー、ワークショップ等の事業 ③自然と環境の題材を活かした地域振興に関する事業 ④ 必要な調査研究、情報収集及び提供 ⑤会報及び出版物の発行
希望対象国	日本、インドネシア

沖縄SDGs探究会

私たちの考え

① SDGsに取り組む意義

「誰一人取り残さない、置き去りにしない」という目標がありますが、「傷ついている、声に出したくても出せない」方々がいます。当会はプロボノやナッジを通して、2030年しなやかで穏やかな社会が実現できる仕組みづくりを、ソーシャルビジネスを目指します。

② NGO／企業と連携する上で苦労した点

やはりコロナ禍では、自粛/活動制限がかかり個人活動にならざるをえなかった。

③ NGO／企業と連携して良かった点

短期間でしたが、チーム活動ができたことは喜びであり、勇気も頂けました。

④ 今後の活動

来年～来年度以降は活動がしやすい環境にいるかと思っています。継続を願います。

所在地	那覇市銘苅2-3-1 なは市民活動支援センター内
URL	
代表者（役職）	金城 孝郎 （世話人。NPO法人設立後に代表就任予定）
職員数	12名（メンバー数）
理念	Think Globally Act Locally SDGs 目標：3×4+5=17（ゴール） 健康と福祉(3)質の高い教育(4)を地域住民、特に子供や障がい者、在沖外国人に平等公平に学び場を提供(5)。NGO/NPO、JICA 沖縄、企業/団体等とパートナーシップを構築し(17)、協働共創で「世界平和」を実現する。
事業内容	医療/介護/福祉/教育等の専門職チームで人材育成や派遣事業
希望対象国	まずはフィリピンやタイを中心とした近隣の東南アジア諸国（現時点）

一般社団法人 沖縄・ミャンマー友好協会

私たちの考え

① SDGsに取り組む意義

当協会の目的とSDGsの目標は合致する部分も多く、SDGsの活動を通じて同時に当協会の目的に沿った活動を推進したいと考えています。

② NGO／企業と連携する上で苦労した点

SDGsに対する取り組み方が異なるので、歩調を合わせるのに苦労しました。

③ NGO／企業と連携して良かった点

当協会だけでは活動できる範囲が限られているので、多くの方々と一緒に取り組み、より具体的な活動に参加できた点が良かったと思います。

④ 今後の活動

ミャンマーは発展途上の段階ですが、現在、新型コロナも含め混乱状態にあるので、沖縄そして日本在住のミャンマー人等を通じて、ミャンマーの発展に貢献したいと考えております。

所在地	南城市字仲伊保116-1
URL	
代表者（役職）	下地 清吉（会長）
職員数	2名
理念	沖縄とミャンマーを結ぶ「文化と経済の懸け橋」
事業内容	①ミャンマーの文化・経済団体との民間交流、②ミャンマーの子供たちの教育・福祉支援、③沖縄の文化・経済団体、個人のミャンマーの関係団体・企業への派遣・紹介 ④沖縄県在住ミャンマー人や来沖ミャンマー人との親睦・交流、⑤県内・外国際交流機関・団体との交流、活動関係協力（JICA、JETRO、中小企業基盤整備機構、県・国の関係部署）
希望対象国	ミャンマー

NPO法人 沖縄平和協力センター

私たちの考え

① SDGsに取り組む意義

誰しもが何気なく行っている何らかの活動がSDGsに繋がっていると思うが、2030年というゴールに向けて意識して活動することでより良い社会づくりの実現が可能になると思います。

② NGO／企業と連携する上で苦労した点

企業とのマッチングプログラムがあり、企業と相互理解が出来ていたのが特にありません。

③ NGO／企業と連携して良かった点

NGOのアイデアを企業のノウハウで「事業化」できることを知りました。

④ 今後の活動

これまでの活動も意識せずとも「SDGs」の取組になっていたと思うが、今後はより意識を傾け「『平和を希求する心』を具体的な行動にするため」の活動を続けていきます。

所在地	那覇市久米1-5-18 稲福ビル201-B
URL	http://www.opac.or.jp/
代表者（役職）	仲泊 和枝（理事長）
職員数	3名
理念	安全保障や国際平和協力分野での人材育成、支援活動、調査研究、交流・ネットワークづくなどを通じて、もって沖縄からの世界平和と国際協力の推進に寄与する
事業内容	「平和への思い」発信・交流・継承事業、「沖縄・東ティモール 地域力強化を通じた紛争予防協力」、「沖縄・カンボジア 博物館から発信する平和教育普及プロジェクト」
希望対象国	東ティモール、カンボジア

NPO法人 日本スリランカ次世代育成サポート

私たちの考え

① SDGsに取り組む意義

課題解決のために、地球と人間社会の相互作用、環境、経済と社会問題、貧困、教育、文化や多様性などを総合的に見る必要があります。技術面と精神面も含めて、社会全体の傾向を理解しながら、相互の連携と助け合いの精神を広げるために大変役に立ちます。

② NGO／企業と連携する上で苦労した点

企業には、普段の業務以外で取り組んでいるため、効率の良いスケジュール調整や連絡に努めました。内容によって担当部署が変わるので、丁寧な説明が大事と感じました。

③ NGO／企業と連携して良かった点

社員を対象とした講演会を実施した際に、「とても良かった。業務に活かせる!」とお声を頂きました。企業の人材教育のお役に立つことができ、大変嬉しく思いました。

④ 今後の活動

スリランカで、実践的能力を伸ばす教育モデルを構築するプロジェクトと、教育支援のクラウドファンディングを検討しています。沖縄とスリランカの芸能交流事業も予定しています。2022年に、日本とスリランカは国交樹立70周年を迎えるため、国交が両国の市民にもたらした効果を検証する機会も作りたいです。

所在地	那覇市銘苅2-3-1 なは市民協働プラザ2F
URL	https://japan-srilanka-nges.studio.site/
代表者（役職）	ディリープ・チャンドララール（理事長）
職員数	0名（現在は、全員ボランティアスタッフ）
理念	多文化共生における平和な社会を目指しています。
事業内容	国際教育支援事業・多文化社会理解促進事業・異文化交流事業
希望対象国	スリランカ

多文化ネットワークfuふ!沖縄

私たちの考え

① SDGsに取り組む意義

funとfairをモットーに、誰ひとり取り残さない平和な多文化コミュニティづくりで持続可能な社会を目指す。

② NGO／企業と連携する上で苦労した点

-

③ NGO／企業と連携して良かった点

社会課題に対して共通認識をもち、お互いの強み、専門性をいかした相乗的な取り組みが期待できる。

④ 今後の活動

パラソルの下で、誰でも気軽に参加できるfuふ！パラソルチャットを展開し、多文化コミュニケーションを創造する。多文化共生に取り組む団体や人のネットワークを構築し、情報シェアや課題の共有等、funとfairな関係性でつながり、多文化共生コミュニティを目指す。

所在地	那覇市小祿811-13
URL	
代表者（役職）	大仲るみ子
職員数	5人
理念	fun（楽しい）、fair（公平）なコミュニケーションでつながり、誰もが安心して笑い合って暮らせる平和な多文化コミュニティ創造
事業内容	① 交流事業：楽しく（fun）、公平（fair）なかかわりで交流する ② 相談事業：ひとりの困りごとを社会の課題と考える ③ 調査事業：調査を通してつながり、伝える ④ ネットワーク構築事業：多様な文化を尊重し合う市民、関係団体と連携する
希望対象国	

新垣養蜂園

私たちの考え

① SDGsに取り組む意義

ミツバチは受粉によって人間の食糧を支えている。そのミツバチが減少している。ミツバチの視点に触れることは、自然環境の保護や新たなまちづくりの着想を得るのに必要不可欠です。

② NGO／企業と連携する上で苦労した点

ミツバチを使って効果的に自然環境を作れるか、どこと連携するか悩みました。NPO首里まちづくり研究会と連携したまちづくり活動が始まり、地域への理解などを進めるのに苦労しました。

③ NGO／企業と連携して良かった点

地域のまちづくり団体と連携し、まちづくりを主体にしたミツバチプロジェクトができたことで、恩納村や地域企業との連携が生まれ始めた。

④ 今後の活動

ミツバチを視点にまちづくりを考える機会を作り、市町村や地域企業と連携することで、次世代に向けた持続可能性を最大限に引き出すきっかけを作っていきたい。

所在地	那覇市首里金城町1-29
URL	http://www.aaa888.org/
代表者（役職）	新垣 勉（代表）
職員数	5名
理念	人と自然に貢献したい
事業内容	養蜂、はちみつ・蜂産品製造・販売、みつばち環境教育、地域支援など
希望対象国	必要とすればどこでも対象（技術ノウハウは全世界共通する）

NPO法人 パシフィックガーデン

私たちの考え

① SDGsに取り組む意義

気候変動に台頭する地球環境問題、それを当たり前としてきた右肩上がりの経済成長は過去の物である事を地球市民として認識せざるを得ない。SDGsに限らず、共有できるワードとして各々が異なる立場から寄り添える分かりやすさ。

② NGO／企業と連携する上で苦労した点

コロナ禍もあり思うような連携には至らなかったのは残念。本事業に限らず、歴史や活動資源を異にする各主体が協働の仕組みを理解、共有するのは簡単ではないが、それも多様性の入口と理解します。

③ NGO／企業と連携して良かった点

本事業を通じ、可視化可能な成果共有が出来ること嬉しいのでは。

④ 今後の活動

協働を概念でなくツールにしていきたい。

所在地	沖縄県事務所 那覇市銘苅2-3-1 なは市民協働プラザ2F
URL	https://www.pacific-garden.org/
代表者（役職）	伊藤健治（代表理事）
職員数	国内（常勤3名、非常勤若干名）、海外常勤（15名）
理念	アジア、大洋州を主たる活動領域として発展途上国、特にその農村部に対して持続可能な地域開発のための必要な支援活動を行うことにより、地域社会の活性化、発展に寄与することを目的とする。
事業内容	南太平洋ソロモン諸島国での職業訓練校設立・運営、国内環境教育事業、フェアトレードパーラー運営 他
希望対象国	

オキコ 株式会社

私たちの考え

① SDGsに取り組む意義

沖縄県内全域に食品を供給する責任と、多くの従業員を抱える企業として、地域社会をよりよくする活動は今後も必要不可欠であると考えます。

② NGO／企業と連携する上で苦労した点

スリランカ協会様が窓口となっていたため、問題はありませんでした。

③ NGO／企業と連携して良かった点

多様な考え方を学ぶ機会になりました。

④ 今後の活動

当面は未定ですが、国際交流を通して、商品開発やサービスの向上につなげていければと思います。

所在地	中頭郡西原町字幸地371番地
URL	https://okiko.net/
代表者（役職）	銘苅 敏明（代表取締役社長）
職員数	700名（正規社員/ 200名、臨時・パートナー社員/ 500名）
理念	お客様の生活向上に貢献する「安全・安心・美味・健康」を心掛け、皆様に愛される製品づくりを目指しています。良い製品をつくり、良心的に供給し、地域社会の発展に寄与することが、私達の企業使命です。
事業内容	パン、和洋菓子、めん、サンドイッチ等の製造販売 菓子、食品の仕入れ販売
希望対象国	スリランカ民主社会主義共和国

OKC 事業協同組合

私たちの考え

① SDGsに取り組む意義

技能実習生の受け入れ監理団体として技能習得指導を通しつつ、かつ地域交流や歴史文化に触れ学ぶ為の架け橋が出来ればと考えております。

② NGO／企業と連携する上で苦勞した点

新設管理団体の為、まだ実施しておりません。

③ NGO／企業と連携して良かった点

新設管理団体の為、まだ実施しておりません。

④ 今後の活動

JICAの取り組む事業の、サポートを行って参りたいと思います。

所在地	沖縄県宜野湾市真志喜1-11-12
URL	
代表者（役職）	比嘉 勇氣（代表理事）
職員数	10社
理念	組合員の相互扶助に基づき組合員に必要な共同事業及び経済活動を促進し、その地位の向上を図る。
事業内容	外国人技能実習生の受け入れ監理団体
希望対象国	

甲陽興産 株式会社

私たちの考え

① SDGsに取り組む意義

環境問題解決に向けた活動は、多くの皆さんの高い志で支えられていますが、継続性には課題があります。このため取り組みに収益性を持たせ、自走できる仕組みを作ることが重要と考えています。

② NGO／企業と連携する上で苦勞した点

ビジネスのノウハウを活かした社会貢献をする場合、経験が乏しく実効性には不安があります。それを NGO との連携で補おうとしても、ネットワークがなくて苦勞します。企業は短期的なメリットを求めがちですが、NGO は社会への中長期的な効果を重視します。このため、互いに理解を深めることが大切と感じました。

③ NGO／企業と連携して良かった点

SDGsの推進にはパートナーシップが重要で、環境問題も個々の企業や団体では解決できません。環境分科会でNGOや多くの企業との繋がりを得たので、ビジネスとしての環境貢献活動の新たな可能性に期待しています。

④ 今後の活動

NGOと連携し、ビジネスの視点で活動を支援しながら、発展途上国を中心に環境と経済の両立に向けた仕組みづくりを目指します。

所在地	沖縄県中頭郡北谷町宮城3-149
URL	http://www.koyo-eco.net/
代表者（役職）	北角 治太（代表取締役）
職員数	40名
理念	自然と産業が共生する社会の実現
事業内容	お客様の環境ビジネスパートナーとして、廃棄物ゼロに向けたソリューション提案。処理施設等を持たないファブレス型のビジネスモデルで、各種副産物にワンストップで対応する。PCB 廃棄物の全廃をはかるビジネスモデルで、調査から処分まで全国展開。エコレク事業として環境学習教材の開発・イベント開催・環境配慮型農場運営なども行っている。
希望対象国	

有限会社 クリーンアイランド

私たちの考え

① SDGsに取り組む意義

限りある資源を繰り返し使うことが、地球やすべての生物の環境と生命を維持するための「根源」であると確信しております。SDGsは、その指針を示しております。

② NGO／企業と連携する上で苦勞した点

特にありません。

③ NGO／企業と連携して良かった点

視野が広がりました。

④ 今後の活動

SDGsの目標「12. つくる責任つかう責任」は、弊社の事業活動との関係性が深い為、より強い意識と行動によって社内外へのアピールを行う。

所在地	沖縄県うるま市字州崎7番地23
URL	https://www.clean-ild.com/
代表者（役職）	前川 哲也（代表取締役）
職員数	10名
理念	「人」と「自然」の共存共栄を考える
事業内容	産業廃棄物収集運搬業・処分業、リサイクル業
希望対象国	インドネシア

株式会社 国際旅行社

私たちの考え

① SDGsに取り組む意義

旅は人の心を豊かにします。世界中の人が、多様な人種や民族、自然環境や文化に敬意を払うことができる活動の実施やお手伝いを通して、地域、社員と共に100年企業を目指します。

② NGO／企業と連携する上で苦勞した点

NGOの皆さんとゴールを共有し、役割分担をして進めたので、苦勞はありませんでした。企業がこうした取り組みをするには、社内から評価される必要があり、費用対効果も問われます。上層部や社員に理解を広めることが、重要と感じました。

③ NGO／企業と連携して良かった点

既存事業から一歩進んだ、新しい取り組みに挑戦できました。NGOとの協業を通して、SDGsに寄与できる仕事を生み出すことが分かりました。そうした仕事により、社員や地域に必要とされる企業を目指したいと思います。

④ 今後の活動

NGOの皆さんと、旅行を通じた学びの提供やオンラインツアー、現地の環境に配慮した責任ある観光を実現する商品の企画・販売をしたいと考えています。

所在地	那覇市久茂地3-4-10 久茂地YAKA2階
URL	https://itsl.jp/
代表者（役職）	與座 嘉博（代表取締役社長）
職員数	36 名
理念	私たちはお客様に時間を作って差し上げ、夢を提供するために進化を続けます
事業内容	旅行業
希望対象国	海外・日本国内・沖縄県内

株式会社 さし草屋

私たちの考え

① SDGsに取り組む意義

持続可能と吟いながら、見せかけだけで商業的なものでは無く、人類と地球が共存出来る道を少しでも示すことができたなら意義があると思います。

② NGO／企業と連携する上で苦労した点

全体図が把握出来ていない状態での連携であり、自分の立場もわからないので、手探り状態での協力しか出来ない点。

③ NGO／企業と連携して良かった点

大筋の上位目標など価値観が合致している方とディスカッションするので、前置きなど無くして本題に入れるため、思考が高まった。

④ 今後の活動

JICA考えるカレーの製品化と、食育ゲームの開発を円滑に進め、ゴールまで到達する事はもちろん、本物の支援について学んでいきたいと思っています。

所在地	南城市大里仲間937
URL	http://joykoubou.com/
代表者（役職）	與儀 喜美枝
職員数	6 名
理念	視点を変えればすべてが変わる、不要な物に価値を見出だす。
事業内容	野草のお茶、パウダー、その他食品の製品化、販売、アンテナショップとしてのカフェ運営
希望対象国	

株式会社 ジャンボツアーズ

私たちの考え

① SDGsに取り組む意義

旅行を通した諸外国との国際交流から人材紹介事業分野へ進出する中で、一過性の出稼ぎとしての就労と人材確保としてのビジネスに疑問を感じた。永続的に両国の交流に繋がる活動により、持続可能な「交流」に発展させられると考えている。

② NGO／企業と連携する上で苦労した点

新規事業であるため、どのような分野で、どのような連携が可能なかを模索し、実行に移していく点で苦労もあった。

③ NGO／企業と連携して良かった点

自社にないノウハウを持った機関との連携により、「想い」を形にできる点。

④ 今後の活動

多文化共生をキーワードに、外国人材と国内企業とのミスマッチを防ぐ活動と、相互理解を深めていく活動を進めていきたい。

所在地	那覇市久茂地2-15-10
URL	https://www.jumbotours.co.jp/
代表者（役職）	谷村 勝己（代表取締役）
職員数	94名
理念	「旅行」が好きである。「自分が実際に感動し楽しいと思ったものを多くの人に伝えたい」 私たちはお客様と「感動」を共有し、旅行とサービスを通じて、地球内環境向上とより良い未来創造に貢献致します。
事業内容	旅行業・輸入販売事業・飲食業・人材紹介事業・特定技能登録支援機関
希望対象国	カンボジア、ベトナム、ミャンマー、ネパール

合同会社 シーナプロジェクト

私たちの考え

① SDGsに取り組む意義

世界中がコロナ禍に見舞われていますが、当社では、医学会で証明され、世界特許を取得したNO(一酸化窒素)の製品群を扱っています。コロナ禍でも共存共栄できるよう予防的な情報発信を行い、皆さんと共に誰一人取り残さない世界の実現を目指したいと思っています。

② NGO／企業と連携する上で苦労した点

当社が特に力を入れている健康分野には様々な説明が必要で、ご理解頂くには時間を要します。それぞれお考えもあるので、当社が協力できるものから携わることにしました。

③ NGO／企業と連携して良かった点

多くの情報、各団体や企業の取り組みなどが非常に参考になりました。

④ 今後の活動

県内で普及する仲間を増やして多くの人に知って頂き、コロナ禍時代の予防に役立つ活動を増やしていく。当社は全国展開中であり、意識ある仲間作りが進んでいます。

所在地	浦添市内間4-11-20
URL	https://shi-na.qwc.jp/
代表者（役職）	鈴木 志奈子
職員数	3名
理念	生きるを味わう！笑うから叶う！
事業内容	美と健康に関わる事業を展開している。しばらく休止していた環境事業部を、3年前に再スタートさせた。業務用のフライヤーに沈めて油使用量・光熱費・廃棄物を削減できるオリジナルプレートや、水使用量を抑えて油汚れを洗浄できる強アルカリイオン電解水の洗剤など、環境負荷を低減できるノウハウや商品を提供している。
希望対象国	どの国や地域でも。

株式会社 ティーエーネットワーク

私たちの考え

① SDGsに取り組む意義

2000年の会社設立以来、目標3「すべての人に健康と福祉を」が、保健医療分野の開発コンサルタント会社としてのゴールです。

② NGO／企業と連携する上で苦労した点

コロナの影響で、昨年・今年は海外への展開が限られてしまいました。

③ NGO／企業と連携して良かった点

本プログラムで、外国人材分科会に参加させていただきました。開発途上国の人材と関わってきましたが、在沖の外国人材との出会いは新しい発見でした。

④ 今後の活動

保健医療分野に捉われず、外国人材を始め在沖リソースとのイベントやミニプロジェクトを実施したいと考えています。

所在地	東京都渋谷区南平台町2-7-3 F
URL	http://www.ta-n.com/
代表者（役職）	谷保 茂樹（代表取締役）
職員数	20名
理念	国際協力の現場での活動や業務を通してそこにある平和をみんなで共鳴し、そこから和の力をはぐくむ。
事業内容	開発途上国支援を対象としたコンサルティング事業（保健医療分野）・JICA海外プロジェクトやJICA沖縄国内研修
希望対象国	全世界

トーラス 株式会社

私たちの考え

① SDGsに取り組む意義

「地球温暖化」により、様々な自然環境が破壊や災害に見舞われています。そうした状況に対して、再生エネルギー導入で環境保全・持続可能な社会作りを考えております。

② NGO／企業と連携する上で苦労した点

各企業様が抱えている業務以外での取り組みのため、スケジュール調整の難しさなどでは苦労しました。

③ NGO／企業と連携して良かった点

「ちりひるゆんプロジェクト」では、沖縄本島南部の海のゴミ拾い活動によって海の保全活動にも貢献でき、様々な企業様や地域の方との繋がりも生まれました。

④ 今後の活動

企業方針「人と自然の調和」のもと、「脱炭素」を推進して環境保全に努め、「Be Kind OKINAWA」事業を通して沖縄のSDGs情報を取材・発信し、貢献していく所存です。

所在地	那覇市天久762-14 クリアビル5F
URL	https://www.torus-i.co.jp/ ■ Be Kind OKINAWA https://be-kind.okinawa/
代表者（役職）	福地 博之（代表取締役社長）
職員数	20 名
理念	人と自然の調和 - Harmony of human & nature -
事業内容	太陽光発電システム・蓄電池・オール電化等、県内実績約 2000 件
希望対象国	日本

リチャージ 株式会社

私たちの考え

① SDGsに取り組む意義

災害が多発する昨今、地球の未来のために一人一人ができる事を今すぐにやらなければいけないと考えてます。

② NGO／企業と連携する上で苦労した点

特にありません。

③ NGO／企業と連携して良かった点

新たな視点を得ることができました。

④ 今後の活動

環境と経済は切り離せず、ボランティアと寄付だけでは限界があると思います。最初は寄付から始まっても、その原資を持続可能な収益を産み続ける事業に仕上げていけるように努力したいと思います。

所在地	浦添市沢岬1108
URL	https://re-charge.co.jp/
代表者（役職）	細谷 朝美（代表取締役）
職員数	2名
理念	廃棄物を有価物に！
事業内容	PCやOA機器類のリユース＆資源化、不燃素材による防災兼用蓄電池の販売、善玉菌を活用した環境改善商品の販売、災害時の早急な復旧方法の提案
希望対象国	日本、東南アジア

株式会社 みやぎ農園

私たちの考え

① SDGsに取り組む意義

循環型農業に取り組んでいるため、弊社で目指していることを対外的に共有することができる。

② NGO／企業と連携する上で苦労した点

弊社がSDGsの視点で連携できることが何かを見つけること。

③ NGO／企業と連携して良かった点

弊社が得意とする分野を補ってもらえる。

④ 今後の活動

弊社が得意とする分野を活かして、農産物、加工品、食育を通したSDGsをアピールできる。商品開発を行い、国際協力を繋げていく。

所在地	南城市大里字大城 2193 番地
URL	https://www.miyaginouen.com/
代表者（役職）	小田 哲也（代表取締役社長）
職員数	22 名（うちパート、アルバイト 9 名）
理念	「毎日の暮らしにおいしさと幸せを」
事業内容	平飼い養鶏業・特別栽培農産物の販売・農畜産物を活用した食品加工・契約農家の青果物栽培管理、営農指導・自社農園での野菜栽培・GAP委託管理・国内外への養鶏技術、野菜栽培技術移転（ブータン等）・食品の海外輸出・農業関連の資材販売・農家支援（沖縄県農業法人協会等の事務局運営等）・地域活動支援及び農業体験
希望対象国	タイ

株式会社 CGM JAPAN

私たちの考え

① SDGsに取り組む意義

厳しい国内情勢の中で日本に活躍の場を期待しているミャンマー人材を育て、日本の企業の事業拡大に貢献し、ひいてはミャンマーの経済発展や平和推進に寄与できる人を創ることが、SDGsの目標「10.人や国の不平等をなくす」、「16.平和と公正をすべての人に」、「8.働きがいも経済成長も」の実現につながると考えます。

② NGO／企業と連携する上で苦労した点

分科会にて多方面の活動で着実に成果を上げられているNGOのご活躍を知りました。人材育成や採用、人材の企業とのマッチング等について教えていただき、協力していきたいと考えています。

③ NGO／企業と連携して良かった点

-

④ 今後の活動

県内の事業所を本格的に立ち上げ、上記活動を始めていきます。

所在地	那覇市銘苅2-3-6 那覇市IT創造館204
URL	https://www.cgmj.co.jp/
代表者（役職）	金田 浩邦（代表取締役社長）
職員数	27 名
理念	マーケティング、人、ミャンマーを生かして豊かな社会づくりにグローバルに取り組む
事業内容	在日ミャンマー人材の育成、企業とのマッチング、紹介、派遣 ミャンマー子会社との協働システム開発
希望対象国	ミャンマー

今後の方向性

本プログラムでの企業とNGOによる連携の成果を踏まえ、2021年10月からJICA沖縄内に事務所を構えた「おきなわ国際協力プラットフォーム（OIC-PF）」が設置されます。

本プラットフォームは、『沖縄県において「パートナーシップ」による「沖縄らしいSDGs」を推進するにあたり、特に国際協力の観点で、関連するNGO等団体や企業等の連携による多様な力を集結し、継続的で効果的な活動を展開するために各種の取り組みや支援を行うとともに、本事務局がNGO同士の関係を強めるきっかけになる役割を担い、NGO組織強化のために必要な支援が届けられる対話の場となること』を目的としています。「対話」、「支援」、「連携」の3つを領域に、以下の表のような機能を担っていきます。

領域	テーマ	実施内容
「対話」	1.連携協議会	JICA沖縄とOIC-PF加盟の各種団体による協議会の企画・運営
	2.調整会議	JICA沖縄とPF事務局による調整会議の企画・運営
「支援」	3.情報発信	① SDGs・国際協力に関する啓発や広報、OIC-PF に関する広報
		② OIC-PF 会員の紹介とその取り組みや成果の紹介
		③ OIC-PF のロゴマークの策定と活用、協働キャンペーンの検討
		④ その他JICA からの情報発信業務支援
「連携」	4.活動支援	① OIC-PF 会員団体、企業のマッチング
		② OIC-PF 会員の取り組みに対するサポートやコンサルテーション
		③ SDGs の推進に資する研修、ウィズ・コロナ社会における事業の方法等に関する研修、PF 会員の職員研修や次世代を担う若者の人材育成研修
		5.分科会及び準備会合実施
	6.事業の実施	分科会で企画した事業の実施
	7.催事の実施	普及啓発、会員の交流、情報共有、学習などを目的としたイベントの企画と運営
	8.協働促進	① OIC-PF 会員間の業務提携促進
		② OIC-PF 会員間の人材交流促進
		③ OIC-PF 会員間による商品開発促進

※本プラットフォームに関するお問い合わせは、
JICA沖縄 Tel 098-876-6000（代）内線5313
まで連絡ください。

編集後記

2019年10月にスタートした「おきなわ SDGs国際協力ネットワーク形成プログラム」もあっという間に2年間が経過し、プログラムを終了することができました。これもひとえに関係いただいた皆様のご支援の賜物と改めて感謝申し上げます。

思えばこの2年間、社会に大変大きな影響を与えたコロナショックがあり、2020年4月には、本プログラムも一時中断する事態となりました。一時中断後、「NGOと企業等が出会う場を創り、コロナ禍から社会的な状況改善後も見据えた協働を模索していくことで NGOと企業等の協働モデルが生まれるとともに SDGsに係る沖縄発の国際協力のネットワークの基盤形成につながることを」を目的として2020年8月に再開しました。再開後に毎月1回ずつ計3回の全体でのセミナーを経て、2020年12月以降、分野ごとの分科会形式で本プログラムが進められてきました。分科会は5つとなり、それぞれに目標を定め、目標に向けた活動を進めてきました。コロナ禍で、計画した活動も延期が続き、活動することの難しさを常に抱えていました。しかしながら、分科会に参加された皆さまは、いつも前向きで柔軟な姿勢で本分科会の運営に取り組んでいきました。この姿勢が、社会を変える原動力につながると考えます。本プログラムの最大の功績は、企業と NGOが出会う場ができたことと考えます。こうした出会いの場は今までになかったもので、出会う場を作り、協働で事業に取り組んだことで、将来にわたる沖縄における国際協力のネットワークの基盤が作られたと総括しています。形成されたネットワークを継続することが重要であることから、2021年10月からは、JICA沖縄が「おきなわ国際協力プラットフォーム（OIC-PF）」として本ネットワークを引き継いでいきます。2030年までの SDGs目標年の近い将来に向け、沖縄において今後も連携した事業形成・実施、人材育成、ネットワークの強化・拡充に取り組んでいく所存です。企業や NGO等団体をはじめ、沖縄県民の皆さまの一層のご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



NPO法人 レキオウィングス
理事長 安和 朝忠